




令和6年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立小方小学校	校長	木村 彰	生徒指導主事	丸茂 恵
取組事例名	学級活動『友だちについて考えよう』				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
<p>道徳教育推進拠点地域事業の指定校である本校の重点目標は、「相手のことを思いやり、進んで親切にする。」である。それを受けて、3学年の道徳科学習プログラムにおける学年のねらいは、「相手の気持ちを考えて、友だちを思いやろうとする態度を養う。」に設定している。プログラムの中で、学級活動「友だちについて考えよう」を計画し、ねらいを達成できるように仕組んだ。</p>	<p>学級活動「友だちについて考えよう」の取組を通して育てたい児童生徒像は、「相手のためを思って行動している友だちを見つける。」「友だちの良いところを見つける。」に設定した。</p> <p>「自分だったらこうしてほしい」と思うことを相手にすることが思いやりだと自覚できるようにする。</p>



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
<p>まず、教室で「やさしさの木」の取組をした。友だちの優しいところを見つけ、葉に見立てた付箋にどんな優しい所だったのか、を書き込み掲示した。</p> <p>次に、学級活動で、「学級で〇〇だと思う友だち」のプリントを作り、それに合う友だちの名前を一人ずつ書き入れ、みんなで交流した。普段遊んでいる友だちや、あまり交流がなかった友だちのことも考える機会になった。</p> <p>交流していく中で、自分の名前がどこに書かれているのかを探し、笑顔になったり、意外なところで名前を発見して驚いたりしていた。その後、自分の名前が多く書かれてあったところに自分の名前を貼り、他の人から見えている自分を意識することができた。</p>	<p>児童にめあてをもたせるために 友だちの素敵どころ、良いところを見つけるため、前向きな発言をするという約束をし、スタートさせた。</p> <p>児童の意欲を高めるために 普段遊んでいない友だちのことはよくわからないということがあっても、「こんな印象」でも大丈夫だよという声掛けをした。</p> <p>児童の頑張りを認め、価値付けるために 友だちが書いた自分の〇〇などところを見てまわり、「意外」だと思ったところを一つ書き出した。</p>
 	



3 成果と課題
<p>学校評価アンケートで、「友だちの良いところを見つけることができた」の評価項目が2%上昇した。クラス内での言葉掛けが、優しくなる児童が増えた。</p> <p>「やさしさの木」については、クラス内にとどまることなく、他クラスや教職員にも広がり、児童が教職員に「やさしさの木」の付箋を手渡している場面も見られた。</p>